

クレジットカードの取り扱いにはくれぐれもご注意を！

クレジットカードは旅の必需品ですが、その取り扱いに不用意な人をときどき見かけます。基本的な注意点は、国内でも海外でも共通ですから、下記の点をもう一度しっかり確認してください。

- 「WSCの旅」において、リーダーが参加者にクレジットカードの暗証番号を尋ねることは原則としてありません。万が一、リーダーからそのような要請を受けた時は、理由を確認してください。不審な点がある場合は、WSC事務局を通じて企画委員長に問い合わせてください。

通常リーダーが参加者全員分の航空券やホテル等の予約を代行する場合は、旅行会社、航空会社、宿泊予約専門会社に依頼して、その他の旅行費用と一緒に精算しますので、参加者一人一人のカード番号が必要になることはありません。

但し、クルーズや列車などの特殊な交通機関や特定の宿泊機関などでは、予約時に利用客のカード番号の登録を求める場合もあります。しかし、**暗証番号まで必要としません。**

もし、その必要性を納得してカード番号をリーダーに教える場合は、**必ず口頭で伝えてください。メールやFAXは絶対に使わないでください。**

- 暗証番号はいかなる場合も、絶対に他人に教えてはなりません。

暗証番号とは、クレジットカードを使用する人物がカードの所有者（名義人）と同一人物であることを確認するための番号です。英語ではPIN (Personal Identification Number) といいます。カードを第三者に悪用されないように防ぐ最後の砦が暗証番号ですから、絶対に他人に教えてはいけません。

- 暗証番号には2種類あります。

国内でも海外でも、クレジットカードを使用する際には、以前はカード伝票にサインをしていましたが、最近はキャッシャーにある端末器（カードリーダー）を使う場合が多くなり、暗証番号を自分で入力するよう求められます。（英語圏では、会計係員から「PIN number , please」といわれます）その際、以下のことに気をつけてください。

1. 数字4ケタの番号

新しくカードの発行を申請するときに、**自ら任意で決めて登録する「自分しか知らない」番号**です。もちろん、カードのどこにも記載されていません。この番号はしっかり記憶しておくか、その自信が無い人は、他人に見られない場所にメモしておいてください。

カードリーダーに暗証番号を入力する場合は、この数字4ケタの数字を使います。

暗証番号を思いだせないときは、キャッシャーに伝票を作ってもらい、そこにサインしてください。

2. 数字3ケタのセキュリティコード

自分のクレジットカードの裏面を見てください。16ケタのカード番号に続いて、3ケタの数字が記されています。これは**クレジットカード会社が決めたそのカード固有の番号**で、セキュリティコードといいます。

インターネットで航空券やホテルの予約をする際に、このセキュリティコードを入力するよう求められます。



これがセキュリティコード

あなたのカード番号、暗証番号、セキュリティコードを他人が知ると、インターネットで悪用される危険がありますから、十分に気をつけてください。

(企画委員会 田中 嘉文)